

香川県三豊市

詫間町民俗資料館・考古館 年報 6

(令和5年度)



2025年 3月

三豊市教育委員会

目次

I. 事業の概要	
1 展示	1
(1) 常設展示	
(2) 企画展示	
2 教育普及	3
(1) 昔のくらし体験学習	
(2) 体験講座	
(3) 文化財保護協会との連携	
(4) 地域活動との連携・協力	
(5) 広報活動	
3 調査研究	11
「蟻の首遺跡出土の縄文土器について」	
4 資料の収集・整理・保存・活用	13
(1) 収集について	
(2) 整理について	
(3) 保存について	
(4) 活用について	
II. 組織と運営	16
1 組織・職員	
2 予算	
3 三豊市詫間町民俗資料館・考古館協議会	
4 利用状況	

I. 事業の概要

1 展示

当館の展示は常設展示と企画展示から成る。令和5年度は、常設展示替を行った。企画展示は行っていない。

(1) 常設展示

【民俗資料館】

詫間町をはじめ、おもに三豊地域で昭和30年代頃まで使われていた民具などの民俗資料を展示している。令和5年度は、トイレ増設工事に伴い農業エリアの壁面展示スペースが縮小されたため、一部展示替えを行った。具体的には、壁面から天井部にかけての蓑笠、苗籠の展示数を減らした。



民俗資料館 常設展示
農業エリア 展示スペース縮小前



民俗資料館 常設展示
農業エリア 展示スペース縮小後



民俗資料館 常設展示
農業エリア 壁面展示1



民俗資料館 常設展示
農業エリア 壁面展示2

【考古館】

国指定史跡紫雲出山遺跡をはじめとした三豊地域で見つかった考古資料を中心に展示している。また、詫間海軍航空隊資料（関係資料を含む）、所蔵文書資料も展示している。令和5年度は、近世・近代の三豊展示エリアの展示資料を、資料保護の観点から入れ替えた。

【旧展示資料】

資料名	年代	採集地	分野	点数
積の伊勢講道具一式	昭和—平成	詫間町積	民俗	1
奉納四國八十八ヶ処納経帳	近世	詫間町詫間	文書	1
珠算速成法	近世	詫間町詫間	文書	1
四国偏禮道指南増補大成	近世	—	文書	1
算術帳	—	詫間町松崎	文書	1
弥谷寺境内版面讃州劍五山弥谷寺一山之図	—	三野町	文書	1



考古館常設展示 近世・近代の三豊
「人々の信仰と四国遍路」 展示変更前

保管場所：考古館2階収蔵庫、積の伊勢講道具一式のみ民俗資料館展示ケース内

【新展示資料】

資料名	年代	採集地	分野	点数
大師堂再建寄進帳	近代	詫間町栗島	文書	15
彌谷寺大師堂再建用木寄附金録	近代	詫間町栗島	文書	2
讃岐写真帖	近代	詫間町詫間	文書	1
五重大塔造営記念	近代	—	文書	1
弥谷寺木札	近代	詫間町詫間	民俗	2



考古館常設展示 近世・近代の三豊
「人々の信仰と四国遍路」 展示変更後

(2) 企画展示

令和5年度は両館とも企画展示は行っていない。

2 教育普及

博物館に類する施設としての当館は博物館法第3条にある、学校や図書館、公民館などとの協力という項目について開館当初から前向きに取り組んでいる。特に学校の活動に対しては、授業内容に沿うような、民具を実際使用する縄ないや洗濯、火起こしなどの体験学習を実施しているところであり、三豊市のみならず県内において広く認知されている。

(1) 昔のくらし体験学習

ものが豊富で豊かな生活に慣れている現代の子どもたちにとって、冷蔵庫や洗濯機などの電化製品がほとんどなく、質素な暮らしを送っていた頃の生活の様子は想像もつかない。そこで、くらしで使われた道具を用いた曾祖父母の子ども時代の生活を体験することで「当時の人々が家族全員で家事労働を支え、物を大切にする心や知恵の素晴らしさ、思いやりにあふれ、たくましく生きてきたこと、に思いをめぐらせてほしい」との思いで体験学習を展開している。

新型コロナウイルスもこの年5類感染症に位置付けられた。民俗資料館・考古館として体験学習では竈でのご飯炊きを復活することを事前の打合せにて周知した。体験学習終了後の館内消毒は引き続き徹底して実施した。

体験の内容としては、定着しつつある水運び体験だが児童には担い桶の水の重さが肩に重く感じられ、昔の人々の苦勞やたくましがより感じられる体験になったのではないかと思う。

<昔のくらし体験学習参加校>

計 43 校 1,752 人 (引率含む)

No.	月	日	時間	小学校名	市町村	学年 (年)	人数 (人)	引率 (人)	合計 (人)
1	9	15	午 前	羽床	綾川町	3・4	27	3	30
2		22	午 前	四条	まんのう町	3	33	3	36
3		26	午 前	富熊	丸亀市	3	31	2	33
4		29	午 前	垂水	丸亀市	3	44	4	48
5		〃	午 後	筆岡	善通寺市	3	42	4	46
6	10	3	午 前	国分寺南部	高松市	3	105	5	110
7		4	午 前	飯山北	丸亀市	3	66	6	72
8		〃	午 後	香大附属高松	高松市	3	98	4	102
9		6	午 前	豊原	多度津町	3	74	5	79
10		11	午 前	比地大	三豊市	3	22	4	26
11		17	午 後	象郷	琴平町	3	17	2	19
12	10	20	午 前	本山	三豊市	3	24	3	27
13		〃	午 後	高篠	まんのう町	3	31	2	33
14		27	午 前	氷上	三木町	3	95	5	100
15		〃	午 後	南部	善通寺市	3	25	3	28
16	11	8	午 前	飯山南	丸亀市	3	55	4	59
17		10	午 前	府中	坂出市	3・4	33	4	37

18	16	午 前	陶	綾川町	3	41	5	46	
19	17	午 前	昭和	綾川町	3	35	4	39	
20	28	午 前	下高瀬	三豊市	3	23	3	26	
21	29	午 前	松崎	三豊市	3	10	2	12	
22	12	1	午 前	中央	高松市	3	138	6	144
23	12	午 前	栗熊	丸亀市	3・4	40	4	44	
24	1	12	午 前	上高瀬	三豊市	3	29	3	32
25	16	午 前	仁尾	三豊市	3	23	3	26	
26	17	午 前	笠田	三豊市	3	17	3	20	
27	18	午 前	東部	善通寺市	3	47	3	50	
28	19	午 前	宇多津北	宇多津町	3	89	6	95	
29	23	午 前	曾保	三豊市	3・4	3	1	4	
30	24	午 前	大見	三豊市	3	25	3	28	
31	25	午 前	桑山	三豊市	3	16	3	19	
32	26	午 前	詫間	三豊市	3	26	3	29	
33	30	午 前	詫間	三豊市	3	23	3	26	
34	31	午 前	詫間	三豊市	3	27	2	29	
35	2	1	午 前	麻	三豊市	3	13	2	15
36	2	午 前	上高野	三豊市	3	23	3	26	
37	6	午 前	吉津	三豊市	3	24	2	26	
38	7	午 前	榎井	琴平町	3	13	2	15	
39	8	午 前	中央	善通寺市	3	26	3	29	
40	9	午 前	比地	三豊市	3	22	2	24	
41	14	午 前	吉原	善通寺市	3	25	2	27	
42	16	午 前	白方	多度津町	3	7	2	9	
43	22	午 前	勝間	三豊市	3	24	3	27	



昔のくらし体験学習 完成したなわをもつ児童



昔のくらし体験学習 水運び体験



昔のくらし体験学習 せんたく体験1



昔のくらし体験学習 せんたく体験2

(2) 体験講座

【チャレンジ体験教室】

民俗資料館・考古館につながりのあるテーマで、気軽に親子と一緒に体験できる講座を開設しているが、今年度は日程の調整が出来ず開催しなかった。

【紫雲出山で古代のくらしを体験しよう】

日程の調整が出来ず開催しなかった。

(3) 文化財保護協会との連携

三豊市文化財保護協会詫間支部とともに、文化財保護の一環として、市指定有形文化財・達磨窯の修復作業を行っている。今後も、史跡紫雲出山遺跡をはじめとする市内文化財の保存活用について、文化財保護協会と連携した活動が求められる。

【市指定有形文化財・粟島達磨窯保存活動】

粟島は、明治から昭和にかけて瓦の産地として賑わいをみせ、最盛期には 11 基もの達磨窯を有していた。戦前から残る 1 基の貴重な達磨窯が市の文化財に指定されており、毎年窯の修復・焼成作業を行っている。

本活動は、県文化財保護協会「若い世代を育てる事業」として、詫間中学校の生徒に協力をお願いしている。今年度は、仁尾中学校の生徒の参加もあった。少し早めに日程調整に取り組み昨年同様に作品づくりと修復にも参加された。

9月19日に文化財保護協会会員が達磨窯修復に向けての事前作業を実施した。周辺の草刈りの後、窯焚きで使用する木材をおろし、窯の中の状態を見た。その後、ひび割れの箇所のみを修復し焼成口を覆った。窯焚き(10月28日)は、粘土に水と裁断した藁とを混ぜ合わせたものを、ひび割れ部分に塗って補修したが、天候不順であったため必要最低限の補修にとどめた。



粟島達磨窯 周辺の草刈り作業のようす

10月28日、粟島達磨窯の窯焚き作業を行った。学校関係者は引率を含む19名、文化財保護協会会員8名、職員6名が参加した。文化財保護協会会長から作業の内容と分担について説明があった後、窯の中に中学生の作品を入れ、あぶり・本焚きの過程を経て焼成口を閉じて終了となった。窯出しは11月6日に行った。



粟島達磨窯 窯の中に作品を並べた様子



粟島達磨窯 説明を受ける様子

(4) 地域活動との連携・協力

地域の活動とのつながりでは、おもに当館周辺で催される文化祭などの地域イベントに協賛し連携の輪を広げている。また、近隣からの団体見学も受け入れている。

【詫間町文化祭への参加】

11月11日・12日に詫間町文化祭に作品を展示した。当館の紹介と粟島達磨窯焼成作品、詫間町内小学校から応募のあった「民具・紫雲出山遺跡」絵画作品を展示した。民俗資料館の昭和のくらしコーナーの写真为背景に絵を掛け、絵画と同じ民具（ぬか釜・唐箕）も展示してよりわかりやすくした。粟島達磨窯焼成作品は詫間中学生のランプシェードだった。文化祭終了後、絵画作品は2月まで民俗資料館に展示した。



詫間町文化祭での展示のようす

【団体見学受け入れ】

4月12日に辻元気会 22名が来館した。考古館見学では考古専門員が旧石器・縄文・弥生・古墳時代と、展示内容に沿って解説を行った。また実物の土器に触れる機会も設けた。説明に耳を傾けながら地元の山本町、財田町の話が出ると質問する光景が見られた。民俗資料館見学では自分達の経験してきたことをお話していた。「なわないは学校から帰ると絶対にしていた仕事だった。」「なわないが休みの日には白い旗が上がっていたのでうれしかった。」と語っていた。



辻元気会 考古館見学のようす



辻元気会 民俗資料館見学のようす

高瀬地区民生委員・児童委員協議会が9月20日に17名が来館した。詫間町、仁尾町、豊中町を研修するバスツアーだった。当館で紫雲出山遺跡と船越遺跡を中心に文化財担当から説明して詫間海軍航空隊DVD鑑賞と民俗資料館でなわな体験を数名の方が行い出来たなわを持ち帰った。



高瀬地区民生委員・児童委員協議会 見学のようす

(5) 広報活動

当館の活動を広く市民の方々に周知し、文化財行政への理解を深めてもらうため、以下の通り広報活動を行った。

【チラシの配布】

4月に昔の暮らし体験学習の学校向け案内を市内外小学校に配布した。

【広報・市ホームページへの掲載】

「民具・紫雲出山遺跡」 絵画作品募集の案内を夏休み前に市ホームページに掲載した。

3 調査研究

蟻の首遺跡出土の縄文土器について

岩井 奈緒子

蟻の首遺跡出土の縄文土器は市指定有形文化財(考古資料)である。昭和45年10月24日に詫間町有形文化財に指定され、現在は詫間町考古館の一階に展示されている。非常に貴重な土器であるが、今まで図化や検討はされていなかった。よって、今回はこの土器について検討し、その意義について考えていきたい。

出土土器について

器種：壺 口縁の一部が欠損

法量：口径 5.8 cm 器高 8.3 cm 胴部最大径 10.8 cm 底部径 4.7 cm

器形：わずかに内傾する口縁部をもち、端部は丸く仕上げられている。胴部は扁平な楕円形を呈しており、底部にかけてすぼまる。口径と底部径の中心はややずれるようである。底部は中央に向かってくぼむ。

文様：口縁部は無文である。以下は縄文帯で文様を描く。沈線の一部が縄文によってつぶれているため、沈線を描いてから縄文を充填したものと思われる。胴部は三単位の渦文と、その間を埋めるように帯縄文が段を成す。全体的に器表はかなり摩滅しており、はっきりとは確認できないが、おそらくRL縄文であったと推測できる。

頸部には太い沈線が巡る。下の文様と対応するように3単位に分かれ、沈線の始まりはしっかりと棒状工具を押し付けた跡が確認でき、終わりは力を抜いてはらうような形状になる。その沈線を上辺とした一段目の帯縄文の一部から、下方へ帯が伸び、大きく弧を描いて二段目の帯縄文とぶつかる。弧の始まりは、一段目の帯としっかり接合しているもの(B：以下英字は図版と対応)、開始地点の外側の沈線がわずかに幅をあげ、二段目の帯とぶつかるようにみえるもの(A)、三段目あたりから外側の沈線がはじまり、それまでは縄文も施されていないもの(C)と多様である。

二段目の帯縄文の端は鉤状になっており、弧と合わさって渦文を成している。中央に位置する鉤状文はしっかりと沈線で囲まれているものもあれば(A)、先端が結合していないもの(B、C)もある。渦文は三か所確認でき、その間を充填するように二段目の帯縄文に平行して、三段ほど帯縄文が施される。帯縄文は完全に楕円形を成すものや片方だけ開放されているもの、渦文とぶつかるものや直前で止まるものなどさまざまである。また、この渦文の下にはそれぞれに小さなJ字文がくっついている。最下段の縄文帯とぶつかるもの(C)やJ字文の直前で止まるもの(A)、完全に独立しているもの(B)となっている。文様構成は統一されているが、その細部は細かな違いがみられる。

年代：壺は中期末から後期初頭にかけて出現する器種とされている(幸泉 2010)。壺の出土数はごく少数であることから、壺の形状から年代を検討することは困難であり、今回は文様を中心と

して、年代を考えていきたい。

大きな渦状の主文は縄文時代後期前半に、瀬戸内地域を中心に広い地域で分布する福田 K2 式の特徴といえる。福田 K2 式は三本もしくは二本沈線をもち、主文と従文の帯縄文は連結し、斜方向や縦方向に走るのに対し、蟻の首遺跡の土器は主文と接合するとは言えず、独立した横位の従文となっている。福田 K2 式と同時期に、西南四国地域を中心に分布する宿毛式は二本沈線で横位の多段構造をもつ縄文帯をもち、一部が連結し区画をなす。渦文などの主文は小ぶりなものが多い。宿毛貝塚出土資料の中には I 群 8 類(福田 K2 式そのもの)や I 群 4 類(入組文による渦巻文が見られ、二本沈線による曲線的な磨消縄文帯を有するもの、福田 K2 式系統とされている)があり、他にも福田 K2 式の要素が取り入れられている資料があることは注意したい(前田 1994)。福田 K2 式に関しても、口縁部文様帯に対して、上下の帯縄文が接続して、宿毛式に近い形状をとるものもあり、宿毛式の影響が伺える資料も確認されている(千葉 1997)。そして、福田 K2 式と宿毛式の両者の特徴を兼ね備える土器は周辺地域で出土しており、一概にどちらかであるとは断定しがたい。また、宿毛式に並行もしくは後続するとされる三里式では主文は渦文もしくは同心円文とされ、独立する従文は横走する楕円文などが段に重なるといった構造をもち、こちらにも近い要素がある。三豊市詫間町箱遺跡から深鉢の耳状突起が表採されており、高知県松ノ木遺跡の遺物に非常に類似した特徴をもつ(三豊市教育委員会 2021)。このように高知県域と荘内半島周辺の遺跡との関係性が想定される要素はほかにも存在する。よって、この土器も福田 K2 式の要素ももちつつ、西南四国地域の影響も受けていると推測できる。この土器は福田 K2 式から縁帯文初期あたり、すなわち縄文時代後期前半あたりの土器であると思われる。

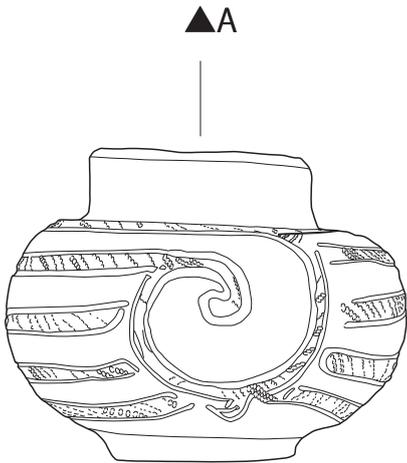
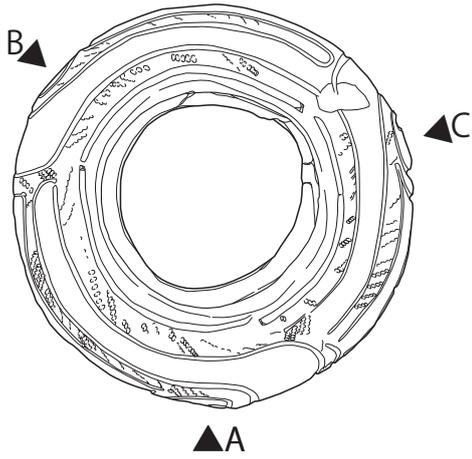
まとめ

荘内半島周辺には早期から後期に至るまでの縄文時代の遺跡が分布している。該当する段階の土器を主体的に出土する遺跡はまだ確認されていないため、壺がほぼ完形で出土していることは大きな意義があると言えよう。周辺の船越遺跡からは、整理作業中ではあるが、在地の土器に加え、九州や中国地方といった他地域のもと思われる土器が出土している。この地域が他の地域との交流があったことは間違いなく、今後も荘内半島周辺における縄文時代の様相について、より一層検討を加えていきたい。

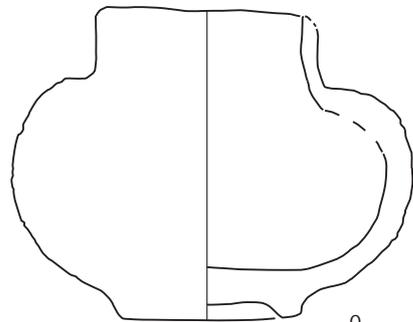
参考文献

- 千葉豊 1997 「福田 K2 式と宿毛式・序論一型式弁別の視点について一」『古代吉備』第 19 集 古代吉備研究会
- 石田由紀子 2008 「中津式・福田 KII 式土器」『総覧縄文土器』アム・プロモーション
- 前田光雄 1994 「宿毛式, その特質」『研究紀要』第 1 号 (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター
- 香川県教育委員会編 1983 『新編香川叢書 考古篇』
- 幸泉満夫 2010 「II 各地域の土器編年 2. 四国」『西日本の縄文土器』真陽社
- 三豊市教育委員会 2021 「3 調査研究 荘内半島周辺遺跡の表採遺物について」『香川県三豊市 詫間町民俗資料館・考古館 年報 2』三豊市教育委員会

図版 1



断面図



蟻ノ首遺跡 縄文土器壺実測図 (S=1/2)

▲A



图版 2

▲B



▲C



4 資料の収集・整理・保存・活用

日常の生活や仕事の中から創造し改良されて使われてきた民具が、経済や生活様式の著しい変化に伴い、目の前からその姿を消そうとしている。しかし、その民具を使っていた人には、それぞれの品物に対する思いがあって捨てることができない。その様な民具を収集・整理・保存し、先人の知恵と工夫のすばらしさを後世に伝えるため、活動の場をもうけ、実際に活用している。

(1) 収集について

高齢化社会の進行と地域の人口減少により古い家屋の解体が増えてきていることから、三豊市の内外を問わず民具など寄贈したいという連絡がある。

整理作業が追い付いていない現状では、連絡を受けた資料すべてを受け入れるという事は、保存場所の問題も含め非常に難しく、実際に民具を見せていただき受け取りを検討している。

なお、令和5年度収集数は126点である。

【収集状況（令和6年3月末）】

<収蔵資料>		計	126点
No.	名称	点数	分野
1	<ul style="list-style-type: none"> ・掛軸「春風和暢…」(木箱入り) ・大浜小学校創立百周年記念寄贈額「季布無二諾…」 ・ナウマン象の下あごの大白歯(2)・大鬼瓦 ・『化石』 ・大浜小学校の優勝旗 	7点	歴史
2	<ul style="list-style-type: none"> ・浴衣・帯(2)・シングルCD(6)レコード(15)・8ミリフィルム・ミノルタカメラレンズ(ケース入り)・フォトラマ800システムカメラ専用フィルム(2) 記録用カラーフィルム(30)・ポラロイドカメラEE100・コニカオートスライドビューアーA2・富士フィルムポラロイドカメラ(ケース付)・ハンディコピー 	62点	歴史
3	<ul style="list-style-type: none"> ・炬燵・弁当箱(2)・箕・蚊帳・笊(竹製)・手洗い桶・煙草盆・麻袋ドンゴロス(2) お薬品々入・優良雑貨品・盃(小箱入り)・背籠・コテ・一合枘・ELM鉛筆削り器・煙管・こたつ ・大黒天の壁掛け・水筒・枕蚊帳・片口 ・『太平洋戦争六大決戦』 ・『決定盤 これが軍歌だ なぜ日本は敗れたか』 	23点	民具
	<ul style="list-style-type: none"> ・大黒天の壁掛け・水筒・枕蚊帳・片口 ・『太平洋戦争六大決戦』 ・『決定盤 これが軍歌だ なぜ日本は敗れたか』 	3点	歴史

	・『エキストラ版 ゴールデン特集 丸 重巡戦史 陽春4月号』		
4	・『香川県南米移住史』	1点	歴史
5	・ササキガラスペン・プリントゴッコ・放送機器用鉄琴・テープレコーダーSONY ・パーソナルオーディオシステム ZSX-G7000・民芸玩具・金魚ちょうちん・はりこ虎 ・民芸玩具・金魚ちょうちん（フグ柄）・民芸品・紫雲山天然木と天狗・つけペン ELMO スーパー8サウンド 3000AF MARUCO・船燈検定証明書・詫間町名刺入れ ラミカード（俳優）・模造真珠 ・四国たくま法被、東四国国体記念湯呑 ・『東四国国体グラフ』 ・世界地図ポスター「The World by John Speed 1627」 ・第12回国民文化祭・かがわ'97のメモ帳	15点	民具
6	・千人針	1点	歴史
7	・大見送信所（後に火の見櫓として活用）の一部	1点	歴史
8	・和綴じ本	5点	歴史
9	・唐箕・苗を植える定規	2点	民具
10	・糸車	1点	民具

※名称および分野は、寄贈者からの聞き取りをもとにした受入れ段階の情報である。今後の調査・整理段階で変更する場合がある。

（２）整理について

収蔵資料と民具台帳の照合、記録写真の撮り直しなど、整理作業人員の不足感はあるが徐々に進めている。今年度は、市施設解体に伴った歴史資料を多数収集した。民具を収蔵する際は、清掃、保存リストとしての台帳作成と写真撮影を行った。

（３）保存について

三豊市詫間町民俗資料館で保管している民具は、民俗資料館と詫間小学校南側山手にある収蔵庫の2か所に分けられている。収集後何十年と経つ資料も多く、経年劣化によって倉庫内での保存に耐えられなくなってきたものもみられる。

今年度は民俗資料館のトイレ改修工事を6月から実施した為、毎年5月に株式会社喜多猿八に委託し行っていた害虫防除作業を令和6年3月10日に時季を変更して実施した。民俗資料館2階天井部および1階玄関はビニール等を使用して目張りをし、薬剤（エクスマン乳剤）3倍液をミスト機にて空間噴霧。収蔵庫も同様に作業を実施、密閉時間は48時間とした。

（４）活用について

例年、収蔵民具を実際に使用した体験活動の実施や、他館企画展への展示や地元の祭事に際して資料の貸し出し等を行っている。今年度は小学校社会科の「戦争と人々の暮らし」の単元の授業実践と、小学校授業参観で昔の道具体験を親子で行うことで資料の貸し出しを行った。貸出・特別利

用は3件のみだった。

【貸出・特別利用】

<利用一覧>

利用件数 計3点

No.	資料名	申込者	利用目的	区分
1	千人針 砲弾薬莢ほか	香川大学	小学校の社会科の授業で使用 したい	貸出期間 (R5. 11. 25～R5. 12. 9)
2	七輪	丸亀市立城辰小 学校	七輪を使い昔の道具体験を行 う	(R6. 1. 19～ R6. 1. 21)
3	千人針 砲弾薬莢ほか	香川大学		(R6. 1. 8～ R6. 1. 31)

II. 組織と運営

1. 組織・職員（令和6年3月末）

館長 三倉康光
職員 高島良子

2. 予算（令和5年度当初）

5,162千円

3. 三豊市詫間町民俗資料館・考古館及び宗吉かわらの里展示館運営協議会

両館の運営全般について意見を求める三豊市詫間町民俗資料館・考古館及び宗吉かわらの里展示館運営協議会の会議について下記のとおり開催した。

<三豊市詫間町民俗資料館・考古館及び宗吉かわらの里展示館運営協議会委員>

No.	町名	氏名
1	仁尾町	岡田 邦子
2	詫間町	小玉 友良
3	詫間町	小林 千芳
4	仁尾町	浪越 邦子
5	詫間町	馬場 章
6	三野町	前田 高次

(五十音順)

【第1回協議会】

日時：令和6年3月8日
会場：三豊市かわらの里展示館
報告事項：令和5年度宗吉かわらの里展示館事業について
令和5年度民俗資料館・考古館事業について
今後の方針について
その他

議事：教育普及については、「体験学習が充実されているが、人材確保が必要なのではないか」「児童の成長過程によって体験の広がりに変化がある」「地域交流ができるようになってきた」などの意見があった。

資料の収集・整理・保存・活用については、「民具を保存するスペースを確保するためには保存状態によるさび分けも必要になってくるのでは」「資料をもっと有効に活用してほしい」などの意見があった。

4. 利用状況

<令和5年度入館者数> 計1,968人

	個人	団体	無料	小計
一般	294	0	46	340
学生	4	0	0	4
児童	174	1,098	352	1,624

(単位：人)

<学校以外の団体利用一覧>

月日	団体名	人数(名)
4/18	辻元気会	22
9/20	高瀬地区民生委員・児童委員協議会	17
3/24	コペン(ツーリングクラブ会員)	12

*人数は<令和5年度一般入館者数>に含まれる